

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	6企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじん にほんきょういくえんげきどうじょう		団体ウェブサイトURL
	一般社団法人日本教育演劇道場		https://rakurinza.com
代表者職・氏名	代表理事・大河内真由美		
制作団体所在地	〒 329-2815	最寄り駅(バス停)	JR 西那須野駅
	栃木県那須塩原市下大貫1246		
電話番号	0287-36-2488		
ふりがな 公演団体名	げきだんらくりんざ		団体ウェブサイトURL
	劇団らくりん座		https://rakurinza.com
代表者職・氏名	代表 大河内真由美		
公演団体所在地	〒 329-2815	最寄り駅(バス停)	JR 西那須野駅
	栃木県那須塩原市下大貫1246		
制作団体 設立年月	1950年 4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事 大河内真由美 理事 草野知明 理事 古賀章	劇団員8名、制作部1名 加入条件:採用試験合格後理事会で承認、2年間の研究生を経て劇団員に昇格	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	柄澤久美子 (一般企業での事務歴17年)
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	古賀章(市役所勤務歴25年) 経理顧問:清水税理士事務所
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	kunugi@rakurinza.com		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1950年 劇団らくりん座の母体となる 日本教育演劇道場が設立 1952年 劇団らくりん座発足 栃木県演劇教室の巡回公演を始める 1978年 芸術文化振興基金助成事業(社)日本児童演劇協会主催 「児童青少年演劇地方巡回公演」参加 1989年 文部大臣表彰による地域文化功労団体賞を受賞 1992年 子どものためのドラマスクール開始(～2009年) 1997年 那須野が原文化振興財団主催演劇講座講師(～現在) 2000年 子ども演劇塾を開始(～2011年) 2002年 とちぎ総合学習文化財団主催ドラマスクール指導 2014年 (公社)日本児童青少年演劇協会主催 全国地方・離島・へき地 「児童青少年舞台芸術」巡回 2018年 第58回久留島武彦文化賞団体賞を受賞</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>昭和27年9月に、栃木県内の小学校で演劇教室を行って以来71年間にわたり、日本全国の小中学校の体育館で演劇鑑賞教室を約13,000回実施。2019年には年間4作品、100ステージ以上の公演を実施している</p> <p>『おこんじょうり』は1988年の初演以来30年以上、学校公演で上演され続けてきた作品です。</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成30年度 栃木県立盲学校、栃木市特別支援学校、那須特別支援学校、宇都宮市立青葉学園</p> <p>令和2年 栃木市特別支援学校</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://rakurinza.com/sakushin/shogaku/okonjoruri/</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団らくりん座】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	劇団らくりん座公演「おこんじょうり」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>「おこんじょうり」 作/さねとうあきら 演出/鈴木龍男 舞台美術/松下朗 作曲/上野哲生(ロバの音楽座) 振付/酒井麻也子</p> <p>【プログラム構成】 1. 共演児童リハーサル 休憩 2. 「おこんじょうり」開演(上演時間65分) 3. 振り回り(共演児童・生徒)(15分) ※団体・学校双方の時間の都合がつけば、バックヤードツアーを行い、実際に装置などに触れる時間を設けます。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 80 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	脚本使用料
	該当事項がある場合	権利者名 さねとうあきら	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>寝たきりのイタコの婆様は、腹を空かせ忍び込んできた狐に「どうせ死ぬのだから」と食べ物振舞いました。するとお礼にと狐が浄瑠璃を喰ると婆様の病はすっかり治ってしまいました。「おらにも教えてくれ」と婆様は狐に懇願します。奏でる三味線と呪文のように続く長いことば。なかなか覚えられない婆様に狐は苛々しながらも、二人三脚で村人たちの病を治し楽しく暮らしていました。そこへ噂を聞きつけた城の侍が訪れます。</p> <p>【セールスポイント】 この作品は1988年に初演を行って以来30年間、上演を重ねてきた劇団の代表作です。近年では各地の教育委員会から「人権教育」のための公演作品として上演依頼を受けております。</p> <p>【見どころ】 ① “俳優による力強い三味線の生演奏と踊り” 「生きる」がテーマのこの作品にふさわしく、力強いリズムの演奏、狐たちの希望に満ちた踊りを届けます。 ② “舞台美術” まわり舞台を使用。荒野のあばら家から豪華絢爛なお城の中へなど、瞬時に舞台転換が行われ、軽妙な展開は観ている側を演劇空間へと引き込みます。 ③ “登場人物たちの生き様” 孤独に死を迎え入れようとしていた婆様が、おこんと出会ったことで生きる喜びを感じていく様子や、おこんと婆様によるコミカルなやり取り、また他の人物についても、言動一つ一つの中にあるドラマをお楽しみください</p>			
演目選択理由	<p>この作品には「生と死」「孤独と共生」「富と貧困」など様々なドラマが描かれています。観ている児童・生徒が観劇後に何を感じとり、考えたかなど、存分に話し合ってもらえる濃密な作品であるため、鑑賞能力の向上に繋がります。低学年の児童にはおこんと自分を重ね合わせて、一生懸命に生きることの大切さを感じてもらいたいです。また高学年の児童には、偏見や差別、孤独について、生命の尊重など、鑑賞を通して現代社会の問題についても考察してもらえる作品となっております。本編の上演時間は60分(共演部分の上演時間が15分)と、低学年でも集中できる時間であり、全学年が理解でき楽しめる作品です。</p> <p>ワークショップの内容についても、歌・踊り・セリフといった芸術の三大要素を取り入れることにより、想像力・コミュニケーション能力も養うことのできる情操教育に優れたプログラムのこの作品を選択しました。</p>			

児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	<p>本編の前の「プロローグ」(約15分間)の場面で共演します。 舞台に立つ経験も大切ですが、観劇に集中し芸術鑑賞能力の向上を図るためにも共演場面を冒頭につくりました。</p> <p>児童・生徒を「やまびこ」「子キツネ」「猟犬」の3つの役にそれぞれ配役します。それぞれの役を演じ、劇中にわらべ歌と一緒に合唱し、踊ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●やまびこチーム (2名以上、学級や学年単位でも可能です) 山の精霊として最初に登場します。木霊の様に一人ずつ順番に大きな声を出したり、身体全体を使って飛んだりポーズをしたりと山の精霊としての遊びを表現します。 ●子キツネチーム (3名～20名程度) おこんの友達として登場します。一人一人に台詞があり、イタコとの婆さまに悪戯したり、猟犬から隠れたり走って逃げたりします。 ●猟犬チーム (1名～5名) 子キツネを追いかける猟犬として登場します。走って登場しては子キツネを探すアクションをコミカルに且つ大胆に演じます 					
出演者	<p>大河内真由美(所属歴37年、ワークショップ講師歴22年、身体を存分に使って子ども向け、親子向けのWSを勢力的に行っている) 中沢章(所属歴12年、ワークショップ講師歴10年) 杉山幸子(所属歴12年、ワークショップ講師歴9年) 高木彩(所属歴10年、ワークショップ講師歴7年) 大河内沙友里(所属歴6年、ワークショップ講師歴3年) 笠原瑞己(所属歴4年、ワークショップ講師歴1年) 手塚祐子(所属歴5年)</p>					
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	<p>出演者: 7 名</p> <p>スタッフ: 4 名</p> <hr/> <p>合 計: 11 名</p>	運搬		<p>積載量: 2 t(ロング)</p> <p>車 長: 7 m</p> <p>台 数: 1 台</p>		
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み 無		前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着 8時	仕込み(共演児童リハーサル) 8時～11時30分 (11時30分～12時15分)	上演 13時～14時10分	内休憩 無	撤去 14時30分～17時30分	退出 18時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						
本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月 10日	7月 5日	8月 0日	9月 20日	10月 15日	
	11月 0日	12月 15日	1月 15日	計 80日		
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		共演人数目安	～50名		
			鑑賞人数目安	～500名		

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



図1
ステージ上に設営した様子



図2
・体育館のフロアに設営の様子
ステージ前のフロアを6mほど使用
します。
体育館の後方フロアに舞台を設営し、
体育館ステージ上を客席として使用
することで、より多くの座席を確保
することも可能です。



図3 子ぎつねの共演場面



図4 やまびこの共演場面

【公演団体名 劇団らくりん座】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	～50人
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>標準:90分 会場:体育館、教室、音楽室</p> <p>①ウォーミングアップ<5分> ・劇団員による手足の運動に始まり、分散神経、リズム、創造力を刺激する動きを行います。</p> <p>②空間を歩く<15分> ・体育館の空間を人にぶつからないように歩きます。 ・進行がお題を出します。出されたお題をイメージして歩きます。</p> <p>③共演シーンの練習<40分> ・子ぎつね、犬、やまびこの登場シーンの説明、舞台の説明を行います。 ワークショップ時には体育館にある器具を使用して仮設舞台を作ります。 ・各チームに分かれて場面の練習(子ぎつねは体育館、犬は多目的ホール又は教室、コーラスは音楽室などに分かります)</p> <p>●子ぎつね→台本を元にセリフの練習、動きの練習をします。 ●犬→台本を元にセリフの練習、動きの練習をします。 ●やまびこ→わらべ歌の練習と振付の練習をします。 (途中に10分間休憩)</p> <p>④共演シーンの合同練習。各チーム毎に仮設舞台でリハーサル<30分></p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>空間を歩く→実体験や観察したもの空想したものなどを基に想像力を育む 数字や絵画制作→コミュニケーション向上、自主性を高めかつ協調性を育む 共演→集中力、創造力、自己肯定感の向上</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>事前に学校と綿密な打ち合わせをし、児童の人数や学年・適性に合わせた内容を実施します。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

劇団らくりん座

】

①本事業に対する取り組み姿勢

現代の子どもたちは、パソコンやテレビ・タブレットで、どんな情報もエンターテインメントも、自由に選び、いつでも見ることができます。

一方で、実際に身体を動かしたり、初めて見るものに触れたり、といった「体験」の機会は、減ってきているように思います。

「生の舞台」を見ることは、子どもにとって非常に重要な体験の一つと考えています。生の人間が目の前で演じる感動を子どもたちに感じてもらいたい。また、一緒に舞台に立つことで、普段味わえない緊張感と達成感を感じてもらいたい。そして、それを糧として生きる力を養ってもらいたい。

これが私たちの思いです。

全ての子どもたちに「生の舞台」を届けたいと考えていますが、実際には小規模校など、芸術鑑賞の機会を得にくい学校があるという現実も承知しています。

そういった学校の子どもたちにも、この事業の力を借りて是非とも生の舞台をお届けしたいと考え申請しました。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫**1)ワークショップの事前調査**

ワークショップを行う前に、先生方とどのようなことに重点を置いて進めていくのが、こどもたちのためになるかなどの打ち合わせを、電話またはメールにて行います。(協調性を育みたいのか自発的に行動できるようになりたいのかなど)

2)ワークショップ資料と事前打合せ事項送付

ワークショップを行う上でのタイムスケジュールや準備物等、わかりやすく資料にまとめ、事前に学校に送付いたします。

事前打ち合わせのための、打ち合わせ事項をまとめた書類も同時に送付いたします。

3)本公演の事前打ち合わせ

ワークショップには舞台責任者と本事業担当者が指導者として参加します。事前に送付した打ち合わせ事項を元に、会場の寸法確認、当日の詳細な時間などを打合せする時間を作っています(30分～1時間)。

4)公演当日の打ち合わせ

学校に到着後、担当の先生または司会をされる先生との打ち合わせを20分程いただき(時間帯は先生のご都合の良い時間をお願いします)最終確認となります。

5)連絡手段について

劇団内事務所に常駐の事務員が、当事業の事務も担当しています。ご不明な点があれば遠慮なく、劇団までTEL・FAX・メールなどでご連絡ください。迅速に対応いたします。

(TEL受付時間は月～金9時～17時)

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

おこんじょうり

作：さねとうあきら 演出：鈴木龍男

美術：松下朗 音楽：上野哲生 照明：石田道彦 振付：酒井麻也子

上演時間
55分



イタコと狐。本来は敵とも言える両者が力を合わせて他者の為に生きる姿、庶民の暮らしとかけ離れた暮らしをする城内の権力者の身勝手な振舞い、慎ましく暮らしているはずの中間^{ちゅうげん}たちの強欲な行為。

さまざまな対比・対立が織り込まれた「愛と生命の物語」です。

三味線の演奏や力強い舞い、まわり舞台による軽妙な舞台転換が、観る人の想像力を掻き立てます。

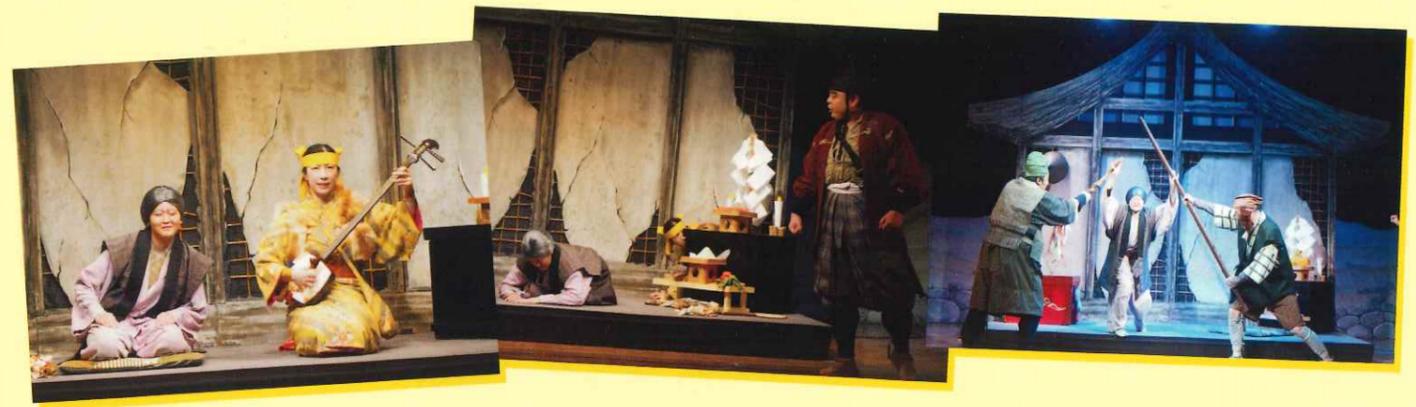
原作者コメント

「永遠の愛の記念碑として」原作者 さねとうあきら
那須野の狐という、とっさに「殺生石伝説」の九尾の狐を思い浮かべます。狐抜きにしては、日本民話について語れないくらい、庶民に親しまれてきた動物ですが、人を惑わす悪役かと思えば、お稲荷さんのように信仰の対象にもなり、善悪では律しきれない多様な関係を、語り伝えてきました。

わたしの創作民話「おこんじょうり」に登場する狐は、盲目の婆と助け合って生きる健気な共同生活者です。邪悪の象徴のような「殺生石」の九尾の狐とは対照的な愛の絆で結ばれた老婆と狐の物語を広めて行くことで、野の狐と人が睦み合い信頼しあう側面を鮮やかに印象づけてもらいたい、と改めて切望せざるを得ません。

今回のらくりん座の「おこんじょうり」の上演により、再び那須野の一角に永遠の愛の記念碑が燦然と築かれることでしょう。それを祈っています。

(劇団らくりん座創立 55 周年記念公演の寄稿文より)



老婆の身代わりとなって死んでいく狐のおこん。
それは「献身的な死」ではなく、最後まであきらめない「なりふりかまわぬ生」だ。

「生」と「生」との執念がぶつかりあい、はじめて生じる「やさしさの関係」それは、本来子どもたちの内にあるはずの、そして今、子どもたちから最も隔てられている「生きぬく力」をきと呼び覚ましてくれるだろう。

演出家コメント

「おこんじょうり」演出 鈴木龍男(前進座)

このお芝居に出てくる、ばあちゃんは、イタコという仕事をしています。うらないをして、村の人たちの暮らしを助けていました。ある日、おこんというキツネと友だちになります。そのキツネには、三味線とじょうりという唄で病気をなおす、ふしぎな力があつたのです。

暮らしの中で自然の生き物と私たちが出会い一緒に暮らすことは、とても少なくなっています。でも、もともとは、人間と生き物は、助け合いささえあって生きていたのです。ばあちゃんとおこんは、言葉が通じないはずなのに、いつのまにか心を通わせていきます。

今地球は世界中で悲鳴をあげています。人間のおろかな行動で地球を痛めているのです。南極の氷がどんどん溶け出しているのは、体が痛くて大つぶの涙を流しているのです。自然を大切に思う気持ちがあれば、言葉が通じなくても、心をかよわすことができるのではないのでしょうか。

おこんのように、音楽の力で地球の病気を治すことができれば、良いのになあとこのお芝居を皆さんにお届けします。

ご感想

1年生から6年生まで、それぞれの発達段階での受け止め方は様々ですが、誰もが生の舞台を経験できたことに、魂が震えたようでした。息づかいの聞こえる距離でのメッセージこそ、本当に伝えたいことがこんなにも確かに伝わるのだと思いました。

栃木県佐野市 小学校 校長先生

あんなすごいげき、いままでみてきたなかで一ばんじょうずだとも思います。おこんは、すごくじょうりがうまいね。わたしのおじいちゃんもじょうりがだいすきだったんだよ。またこんどもげきをみせてくださいね。

宮城県富谷町 小学一年生

わたしが心にのこったことは、二つあります。一つ目は、三味線をひいていて、イタコの人が歌にあわせて歌って、病気やけがをなおしていたところです。ふつうだったら、薬などを飲んでなおすけど、三味線をひいて歌を歌ってなおすのが心にのこりました。二つ目は、最後のシーンのきつねたちに三味線をひいて、歌を教えているところです。私は、動物に教えても覚えられないと思っていたけれど友達から、動物も、人間と同じく覚える力があるんだよ。といわれたとき、そうなんだ。と思いました。

福島県いわき市 小学四年生

わたしが最も心に残ったのは、最後の、おこんが中間たちに殺されてしまった場面です。息絶え絶えになりながらも、お婆さんを気づかうおこんと、おこんを死なせまいと必死にじょうりの句を唱えるお婆さんの姿が、見ていて切なかったです。

栃木県野木町 小学六年生

すごいげきですね。私はおこんが死んでしまうときに泣いてしまいました。お婆さんは歌もわからないのに、ひっしにお婆さんがおこんに、まがっても何度も歌っておこんを助けようとしているすがたが涙があふれるほどでできました。私たちが10月に学習発表会があります。私たちは面白げきなので笑ってもらえるようにがんばります。

小学三年生

